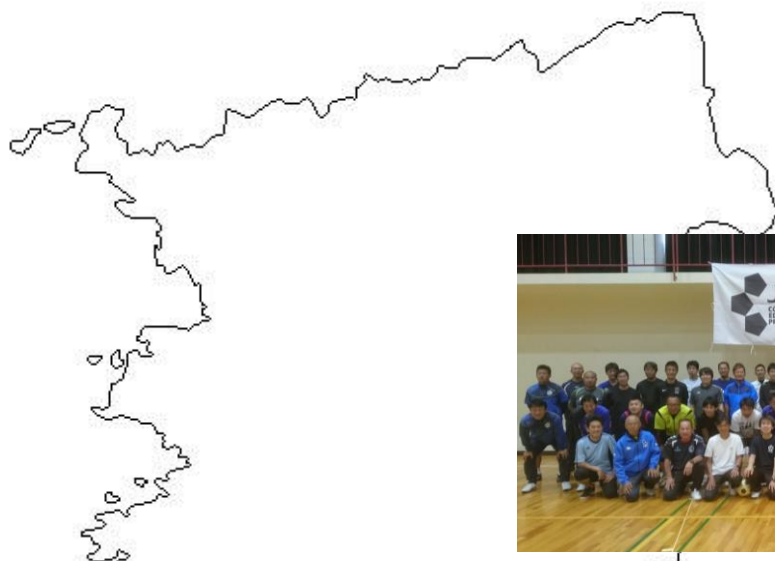


2016 四種リーグ戦研修会

報告



(一社) 和歌山県サッカー協会 技術委員会 指導者養成部

【開催概要】

1. 目的

- ・四種年代で年間を通したリーグ戦を開催するにあたり、リーグ戦の意義や大会の趣旨を、指導者で共有する。
- ・リーグ戦をより良いものにしていくため、各地域の現状や課題について意見交換する。
- ・実技や指導実践を通して、指導力向上及び自己研鑽の場とする。

2. 日時

〔紀南〕平成28年 5月 1日（日）10：00～16：00

〔紀北〕平成28年 5月 8日（日）10：00～16：00

3. 会場

〔紀南〕すさみ町総合運動公園・ホテルヴェルベデーレ

〔紀北〕西松江緩衝緑地公園体育館・会議室

4. 内容

◆講義

「リーグ戦の考え方」

◆ディスカッション

「リーグ戦をより良くしていくために」

◆実技

「インストラクターによるコーチング・デモンストレーション」

◆指導実践

「参加者による指導実践・ディスカッション」

5. 参加者

〔紀南〕41名（28チームより参加）

〔紀北〕58名（44チームより参加）

6. リフレッシュポイント

参加者のうち、C級ライセンス保持者にはリフレッシュポイントとして10ポイント付与
（講義：5ポイント 実技：5ポイント）

【活動報告】

リーグ戦の考え方・ディスカッション

和歌山県の四種では、地域ブロック別のリーグ戦を実施しています。

トップリーグを作り「レベルの拮抗した試合経験」を積ませたい一方で、広い県内を移動する困難さを抱えるチームが大多数という現実もあります。紀北の橋本市から紀南の串本町まで、移動時間は4時間程度で、それぞれの中間地点である紀中、あるいは県フットボールセンターがある上富田町で開催しても、概ね1時間半から2時間程度の移動時間となります。選手・チームへの負担を考慮し、また、レベル差による大量得点差のゲームも承知の上で「生活圏内」でのリーグ戦を採用しています。このリーグ戦に対する認識は、指導者・選手とも随分浸透してきた印象があります。そこで今回は、トーナメント大会とリーグ戦の双方にある「メリット・デメリット」を理解し、今後リーグ戦をどのように戦うか、選手たちにどう取り組ませるか、といった視点で見つめ直し、他チームの指導者とディスカッションしました。



〔リーグ戦のメリット○・デメリット●〕

- 試合数が確保されている。(負けても終わりではなく、次節がある。)
- 勝敗(分)の要素と、得失点の要素がある。
- 大会が長期にわたり、試合へのモチベーション維持が難しいこともある。

〔トーナメント大会のメリット○・デメリット●〕

- 「負けたら終わり」という緊張感(公式戦らしさ)がある。
- モチベーションを高く保ちやすい。
- リスク回避のゲームが多くなりがち。

紀南・紀北とも、日頃から子どもたちに対して熱心に指導されている指導者が集い、リーグ戦への取組に関してもポジティブな意見が多く聞かれました。

リーグ戦もトーナメント大会も“どちらが良い悪い”ではなく「選手の成長にどう繋げるか」といった視点で取り組むことが重要です。それぞれのメリット・デメリットを理解し、大会(ゲーム)を通じて選手たちの成長を考えていただければと思います。

参加者の方々から出された意見を、一部ご紹介します。

- チームとして、前・後半で全ての選手を出場させるようにしている。(必ず半分は出場)保護者にも総会等で説明し、理解を得ている。
- 前・後半でポジションを変え、複数のポジションにトライさせている。
- 得失点差もあるので、最後まで全力で戦うことを伝えている。

実技・指導実践

和歌山県では、四種リーグ戦研修会を指導実践型で開催しています。

参加者をいくつかのグループに分け、テーマの決定・指導案の検討をグループで行うことで、親交を深め、お互いのサッカー観について「オープンマインド」で意見交換してもらうことが狙いです。

指導実践型3回目となる今回は、昨年のアセスメントに要望として多かった「インストラクターによるコーチング・デモンストレーション」を行いました。その後、いくつかのグループに指導実践をしていただき、コーチングのポイントや伝え方、オーガナイズに関することをディスカッションして共有させていただきました。

【紀南】

◆コーチング・デモンストレーション

テーマ「守備のテクニック」

◆指導実践

テーマ「ドリブル」

「シュート」

「守備 ボールを奪う」

「ゴール前の攻防」

【紀北】

◆コーチング・デモンストレーション

テーマ「観る」

◆指導実践

テーマ「ボールフィーリング」

「守備 ボールを奪う」

「パス&コントロール」

「ポゼッション」



実技・指導実践は、どちらも参加者をプレーヤーとして行いました。積極的にプレーをしてくださった参加者の皆様、ありがとうございました。

率直な感想として、まだまだ指導実践への敷居が高いように感じています。目の前の選手たちに関わっている現状に満足せず、より良い指導、グッドスタンダードを目指していただければと思います。そこには、普段からオープンマインドで関わる指導者仲間の存在が大きいと思いますので、この機会にぜひネットワークを広げていただければ幸いです。

【 成果・意見・要望 】

ゴールデン・ウィークのお忙しい中、四種リーグ戦研修会にご参加いただきました皆様、誠にありがとうございました。また、実技や指導実践等、精力的に動いていただいたことにも、あわせてお礼申し上げます。

また、紀南地区・紀北地区でそれぞれ事務局としてご尽力いただきました皆様方にも、この場をお借りしまして厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。

さて、「四種リーグ戦研修会」を終えて、各チームでの活動に戻られ選手たちのために汗を流していただいていることと思います。今回の研修が、何か少しでも皆様のお役に立ち、目の前の選手たちに還元されていくことを願うばかりです。

今後も、さらに実りある研修会にできますよう、皆様にお書きいただきましたアセスメントより「成果・意見・要望」を以下に記します。

ー 成 果 ー

- ・普段あまり話す機会のない他チームの指導者と話ができて、いろいろと勉強になりました。
- ・具体的な内容で皆さんと話ができたので、チームに役立てられそうです。
- ・リーグ戦やトーナメントの良さを理解して、子どもたちに接していきたいです。
- ・ディスカッション形式はおもしろかったです。参考になる話がたくさん聞けました。

ー 意 見 ー

- ・リーグ戦の主旨や重要性は理解できるが、移籍や登録選手数の部分については、まだ検討の余地があると思う。
- ・WFAとしてリーグ戦を“player's first”で考えてもらえるとありがたい。まだまだ、大人の事情が多い気がする。
- ・リーグ戦を7月頃から始めて、その結果を全日本少年サッカー大会に反映できないか。チームの準備期間が短く、前期で可能性がなくなるチームが多数あると思う。
- ・指導者の研修会なのに、実技をする服装が短ソックスやレガース無しの人が多い気がした。
- ・年間カレンダーに日程を入れ込み、各チームの指導者資格保有者の参加を促したほうが良いのではないか。

ー 要 望 ー

- ・年間の開催回数を増やすことはできないでしょうか。
- ・開催地域を紀北・紀中・紀南と分けられませんか。
- ・実技や指導実践の時間は、もっと短くした方が集中して取り組めるのではないか。
- ・インストラクターの実践が観れる機会をもっと増やしてほしい。
- ・芝生とまではいかなくとも、実技はグラウンドでやりたいです。